６　その他

（１）資格取得の取組

①　ＧＴＥＣの取組について

１）結果

本年度は第１学年、第２学年全員を対象に１２月にGTEC　（アセスメント版　Advanced）を実施した。結果は３月中旬に返却予定であるため、現第３学年、現第２学年の昨年１２月の受験分の結果についてスコアとCEFR-Jのレベルを示す。

【現第２学年】昨年度分を掲載。（　　）内はCEFR-Jレベルを示す。

	Reading	Listening	Writing	Speaking	Total
１年１２月	180.9(A2.2)	183.8(A2.1)	227.0(A2.2)	238.9(A2.2)	830.9(A2.2)
全国高１平均	152	158	197	203	724 (A2.1)

【現第３学年】昨年度分を掲載。（　　）内はCEFR-Jレベルを示す。

	Reading	Listening	Writing	Speaking	Total
２年１２月	198.8(A2.2)	205.3(A2.2)	229.1(A2.2)	247.0(A2.2)	881.0(A2.2)
全国高２平均	166	174	203	213	772 (A2.1)

実施したそれぞれの技能測定でCEFR-JのＢ１の基準以上に一致する生徒の人数を以下に示す。

	Reading	Listening	Writing	Speaking	Total
１年１２月	１８	４２	６６	１７	１６
２年１２月	６５	１０２	８８	３０	５１

２）結果の考察と来年度の課題

第１学年では、グローバル英語の時間を利用してディスカッションやスピーチを行うことによって、スピーキング力の養成に力を入れている。コミュニケーション英語と英語表現においても、４技能をバランス良く活用できる活動内容を組み立てている。第２学年でも、４技能のバランスを意識した言語活動を継続して取り入れている。GTECスコアで普段の授業の活動内容を見直し、生徒達が各自の英語力を知り、今後の学習目標を立てる励みになることを期待する。

本事業の目標設定ではCEFR-JのB1～B2の生徒の割合が３０％になるように定めているが、totalスコアで見ると昨年度の該当者は１０％未満である。分野別に見ると、listeningでは２０％、writingでは２１．６％がB1レベル以上の結果を出している。客観的評価に耐えうるSpeaking力の養成、多様な題材を大量に正確に読むReading力とそれぞれの技能を総合的にバランス良く統合して使用できる力の養成が課題である。更に観点別に見ると、Reading では、昨年の１年生はまとまった量の英文に対して、文章全体の趣旨やパラグラフごとの要点について英文を理解する力が比較的弱いことがわかる。昨年２年生も同じ傾向が見られたが、大きく力を伸ばし、WPM が１２０語以上の生徒が３１名であった。(全国平均は７７語)。Listening については、事前予測ができる情報がない中で、会話的な不意の問いかけに対する適当な応答英文を素早く判断し、処理できる力を測る会話応答問題が１年、２年共に弱いことがわかる。実際の会話に近い素早い応答が求められるため、Speaking活動を強化することで対応していきたい。Writingでは意見陳述問題が両学年共に弱い。評価項目の正確さ、語彙、構成、文法の点で１年から２年への伸びが少なく、高得点の生徒がいないことが課題である。ある程度伝わる英文をそれなりの量で書くことはできるので、文法的正確さ、使いこなせる語彙の増加に加え、多角的な視点から自分の考えを説明し、関連性を持たせて主張につなげる文章を書く力をつける努力を継続し、全体的なレベルアップを図りたい。Speaking では語彙・文法、発音･流暢さにおいて

１年から２年への伸びが少ない。評価項目の「内容を十分伝えられている」、「伝えられている」生徒は両学年ともに多数いるので、伝わるだけでなく、正確さや流暢さも意識して話す活動を取り入れる必要性を感じる。

コロナ禍において様々な制約がある中でも、普段の授業ではペアで話す活動をしばしば取り入れており、相手に伝わるように話す姿勢がかなり身についてきたと感じている。生徒に自分の作文力等を客観的指標で確認して向上させるために、次年度にはオンラインでの外国人講師によるライティング添削（およびスピーキング演習）サービスの活用を検討している。生徒達が成長を実感しながら、自ら課題を見つけ、克服していく力を身につけられるように指導していきたい。

②実用英語技能検定について

外部試験の大学入学共通テスト利用は見送られることになったが、今年度も１年、２年生を中心に積極的に受験する生徒が多かった。今年度の第１回、第２回の各級の合格者数は以下の通りである。CEFR-J の B1 レベル以上であるとされる２級以上の合格者は５２人であるが、２年、３年の中には２級に合格する実力があると思われる生徒の割合は多いと感じている。検定合格を目標の一つとし、英語力向上のため努力を続ける生徒が増えることを期待したい。

	１年	２年	３年	計
準１級	０	０	０	０
２級	２	３６	１４	５２
準２級	３４	２７	０	６１
計	３６	６３	１４	１１３

（２）外部コンテスト「JICA 国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト」への参加

（公社）青年海外協力協会（JICA）の主催するエッセイコンテスト。国語科の協力を得て、今年度は３６３名中３２６名が参加した。第６０回となる今回、全国では高校生の部に 25,215 点の応募があり、うち本校からは「国際協力特別賞」を１名が受賞し、「国内機関長賞」を１名が受賞した。「国際協力特別賞」を受賞した作品は冊子や JICA のホームページに掲載される予定である。また、大量の応募があったことで学校としても表彰された（学校賞）。

本コンテストには、１年生の関心・意欲の喚起を目的として６年前から参加を始め、２年目から毎年入賞者を輩出している。今年度は、「私たちと地球の新しい未来」がテーマであり、執筆にあたっては、まず興味関心のある話題について調べ、それに対する自分の考えをまとめた上で、1600 字以内で表現できるよう意識してエッセイを執筆させた。1 学期にグローバル国語の授業で POP を作成した際に紹介した書籍を使って書いたり、読書感想文や「課題研究へのアプローチ」と連動させたり、自分の学びをエッセイの執筆にうまくつなげている生徒が多数見られた。身近な地域や世界が直面する課題について自らの言葉で語るという同コンテストは、本校の取り組む事業との親和性が高く、今後とも引き続き取り組んでいきたいと考えている。

（３）エンパワーメントプログラムの取組

「エンパワーメントプログラム」（Empowerment Program）は、カリフォルニア大学デービス校国際教育センターの藤田斉之氏がカリキュラムを作成し、ＩＳＡ社が独自に開発したプログラムである。このプログラムでは、外国人大学生１人と日本の中高生５～６人が小グループでのディスカッションやプロジェクトへの取り組みを協働して行う。今年度も冬期休業中の１２月２４日から２７日までの４日間、本校を会場に開催し、２８名が参加した。

今年度のプログラムの内容として、第１日目はお互いの自己紹介から始まり、このプログラムで自分が成し遂げたいゴールについて話した。また、グループリーダーによるモデルプレゼンテーションを聞き、英語プレゼンテーションの基礎を学んだ。第２日目～第４日目には、「Positive Thinking について」、「My identity について」、、「Leadership について」、「My Dreams and Goals について」というテーマのもと、スモールグループディスカッションを行った。また、「Green School Project について」「Technology and Our lives について」「という２つのプロジェクトにも取り組んだ。第４日目の最終日には、４日間で学んだことを生かして、生徒一人一人によるプレゼンテーションを行った。

最初は緊張していた参加生徒も、グループディスカッションを行ったりプレゼンテーションの指導を受けたりすることによって、英語で堂々と討議するようになった。最終日の個人プレゼンテーションでは、多くの生徒が原稿を見ずに、ジェスチャーを用いながら見事なスピーチを行った。ただ自分の意見や主張を発表するだけでなく、聞き手にきちんと伝えたいという強い想いの表れであると考えられる。

このプログラムに参加した生徒の主な感想は、以下の通りである。

- コミュニケーションスキルをあげられて、たくさんの人々と関わることができた。
- いままで、英語で自分の意見を言ったり、英語で会話する機会があまりなかったので良い刺激になった。
- このプロジェクトを通して自分が成長できたと実感できた。
- 英語で話すことや自分の意見を発表することへの大きな自信が生まれた。プログラムの前の自分と比べて明らかに成長できたと思う。
- このプログラムに参加したおかげで、自分の殻を破ることができた。
- 来年のアメリカへの外交官研修プログラムに参加しようと思っているので、この経験を活かして夢に１歩近づけるようになりたい。
- 今回のプログラムで国際問題を身近に感じたのでもっと知識を増やしたいと思いました。
- 今後、留学するようなことがあれば、この経験が必ず活きると思います。積極的な姿勢を学ぶことができました。
- グループリーダー（留学生）の方がそれぞれ大きな夢を持っていて、またその夢に向かって努力しているのを聞き、自分もそうなりたいと思うようになった。
- 留学生と交流することを通して、いろいろな思想を持つ人がいることがわかったので、これからも、自分の常識にとらわれず、様々な知識を吸収していきたいと思う。

このプログラムに参加することによって、ほとんどの生徒は英語で自分の考えや思いを述べることに自信をもつことができたとともに、英語学習へのモチベーションを上げることができた。プログラムに参加した生徒の多くは、学校の授業でも積極的に英語を話したり、アドバンストコースに応募したりするなど、このプログラムをきっかけにその後も様々なことに挑戦しようする姿勢が見られる。本校教員も、あらためてディスカッションやプレゼンテーションなどのコミュニケーショ活動の価値を再認識し、どのようにして生徒にそれらの能力を身につけさせていくか、教育活動全体を通して考えていきたい。

YOU DID IT!!
EMP

（４）グローバル探究プログラムの取組

『グローバル探究プログラム』（株式会社 ISA 主催）を実施した。このプログラムは STEAM 教育の理念に基づき開発されたものであり、本校の探究学習のスケジュールに沿う形で計画をした。２年生より希望者を募り、１８名の生徒が参加をした。２年生は年度当初より課題研究に取り組んでおり、各々の研究課題をブラッシュアップする機会であるとともに、海外渡航が難しい状況の中で、自分とは異なる文化背景をもつ人たちと対話をする機会とした。今後も単なる「交流」ではなく「対話」をする機会の創出について、継続して取り組みたい。

日程：令和３年１２月１６日（木）、２１日（火）、令和４年１月５日（水）、６日（木）
目的：①デザイン思考について学び、その手法を用いて、自己の研究内容の深化の一助とする。
　　②自己の研究を他者の視点で再検討する。

内容及び生徒の様子：
１日目：VUCA の時代に必要なものの考え方、見方について、木本健太郎氏（探究学習アドバイザー）より学ぶ。アイディアの生み出し方や、アイディアを具体にしていく過程において、どのような思考が必要か、具体例を用いながら展開頂いた。生徒は当初緊張していた様子であったが、「なぜ」探究をするのかについて考える中で、自分たちの取り組んでいる課題について、再点検する機会になったようである。

２日目：デザイン思考について、ファシリテーターより学ぶ。世界規模で展開している企業の事業例を用いながら、身近な「課題」がどのような規模で課題解決につながるかについて学ばせて頂いた。また真の「課題発見」につなげることができるよう、「取り除くべきものは何か」について考えるようなケーススタディに幾つか取り組んだ。理論に則って、生徒たちはグループで、自分たち独自のアイディアを出し合い、プレゼンテーションをした。この日より、ファシリテーターの使用言語は英語となり、生徒たちは、初日とは異なる刺激を受けつつ、初日に学んだこととの「つながり」を見出すことができ、徐々に表情も活き活きとしてきていた。

３日目：日本で学んでいる留学生（大学院生）３名がプログラムに加わり、３日目のプログラムがスタートし、生徒たちは４つのグループに分かれ活動を始めた。留学生たちからの問いかけにより、生徒たちは「自分の主張」について見直すことができ、課題だと思っていることが、本当に「課題」であったのか、留学生との対話により、徐々に軌道修正をしていく姿が見られた。また留学生と英語を用いて話をすることにより、自分の本当に言いたいことが研ぎ澄まされる感覚を得た生徒もいた。また日本の中で考えていることを、グローバルな視野で考えるきかっけになったようで、書籍や Web サイトからの情報だけではなく、実際に体験した人の声を聞くことにより、自分の課題に当事者意識をもつことができたと感想を述べる生徒も出てきた。

４日目：最終日は、英語による３分間のプレゼンテーションを実施した。午前中は、最終のブラッシュアップと位置づけ、ポスターづくりの過程において、他者に伝えるためにポスターに残すべきものとそうでないものを見極める作業段階に入った。当然、見せ方・話し方については発表時に求められる力の一つであるが、今回のプログラムの大きな目標の一つである「自己の研究を他者の視点で再検討する」といったことに焦点を当て、生徒たちは各々準備に励んだ。３分間ではあるがプレゼンテーションをやり遂げた生徒たちは、あらためて「自分がなぜそれをするのか」という原点を再確認し、自分の研究課題について深化させる道を、見いだせる一つのきっかけを得た。

（参加生徒感想一部抜粋）

・デザインシンキングという新しい考え方が自分の中に入ってきたことで考えの幅が広がってより広範囲に考えることができるようになったから。

・新しい考え方を教えてもらうことでいきづまっていたものも解決したような気がしたから。

・自分では思いつかない考え方を知れた。将来役立ちそう。

・デザイン思考をはじめ、どの内容も全てがなければ今回のプログラムを楽しむことが出来なかったと思う。

・英語でのスピーチはとても難しくて分からない言い回しなどもありましたが、それも含めいい経験になりました。

・とても楽しかったです。英語でこんなにたくさん話す機会はあまりないので、参加して良かったなと思いました。

・英語についての研究をしているので、少人数のグループでかなりの発言の機会があった。